

●がん医療 (がん医療部会)

①がん医療の提供

目指す姿	<p>○がん患者が、県内の医療機関で、より質の高いがん医療を受けることができる。</p> <p>○手術療法・放射線療法・化学療法のさらなる充実とそれを実践できる効果的なチーム医療体制の整備が進んでいる。</p>
平成28年度 取組	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3期計画策定に向けての検討 → 事務局で評価指標を整理、第2回部会で検討 2. がん診療連携拠点病院機能強化事業 → 拠点病院5カ所の人件費や取組に対する補助。 拠点病院の補助や指定要件の取組の内容確認（ヒアリング実施） 3. 「がんネットなら」での情報提供（P2） 医療機能（診療所、訪問看護ステーション）の情報更新 4. がん患者に対する口腔ケア対策支援事業（P3～4） → 奈良県歯科医師会へ事業委託、実施 5. がん診療連携協議会の取組 → 「放射線療法分科会」を新設し、放射線治療に関する取組を実施 <ol style="list-style-type: none"> ①がん診療連携拠点病院・支援病院間の、化学療法に関する公開カフェ（Web会議）の定期開催 ②がん化学療法チーム医療研修会の継続開催 ③放射線治療地域連携協議会の継続と放射線治療水準向上への取組（体制整備への協力等） 6. がん登録の情報活用について → 議論の場として「がん登録部会」を新設。データ活用について検討
平成29年度 取組（案）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3期奈良県がん対策推進計画策定事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ならのがんに関する患者意識調査の実施。 2. がん診療連携拠点病院機能強化事業 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院5カ所、地域がん診療病院1カ所の人件費や取組に対する補助。 ・実地調査の実施：拠点病院等の指定要件や取組内容を確認。 3. がん患者に対する口腔ケア対策支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・がん診療連携登録歯科医の講習会の実施 ・県内がん診療病院への歯科医、歯科衛生士の派遣 4. がん診療連携協議会の取組について <ol style="list-style-type: none"> ①がん診療連携拠点病院・支援病院間の、化学療法に関する公開カフェ（Web会議）の定期開催 ②がん化学療法チーム医療研修会の継続開催（医大） ③放射線治療地域連携協議会の継続と放射線治療水準向上への取組（体制整備への協力等）
開催日	平成28年10月13日(木)、平成29年3月2日(木)
議論内容	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者に対する口腔ケア事業の進め方（病院と地区歯科医師会との連携） ・「がんネットなら」の周知方法（がん医療について） ・小児がんの近畿や県内の現状

平成28年度 がん医療機能調査（診療所、訪問看護ステーション）調査結果

診 療 所	訪問看護ステーション
平成28年9月6日（火）～平成29年1月13日（金）	平成28年12月9日（金）～平成29年1月13日（金）
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県内における、がん診療における診療所の機能把握 ・県民、関係機関へ診療所の機能の公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県内における、訪問看護ステーションの機能把握 ・県民への訪問看護ステーション機能の公開
奈良県内の診療所 999施設	奈良県内の訪問看護ステーション 121施設
郵送での自記式質問紙の配布・回収（各拠点病院が、医療圏ごとに調査を実施）	郵送での自記式質問紙の配布・回収
<ul style="list-style-type: none"> ・がんの診療体制について ・他施設との連携状況 ・がん患者の在宅訪問診療状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションの体制について ・サービスの実施状況 ・がん患者への対応 ・対応可能な医療処置について
459施設（45.9%）	106施設（87.6%）

奈良県がん患者に対する口腔ケア対策支援事業

1. 事業の目的

がん治療において、歯科医療従事者が提供する口腔ケアや歯科治療は、がん患者の QOL 向上のため重要な支持療法である。また、がん患者の口腔ケアや歯科治療・医科歯科連携の必要性や重要性が増すなか、がん診療病院との連携や歯科医療従事者の質の向上を図ることを目的とする。

事業開始：平成 26 年度～ 委託先：奈良県歯科医師会

2. 事業内容（平成 28 年度）

- ① 歯科医療の推進および医科歯科連携体制を構築する観点から、歯科医師及び歯科衛生士を派遣する。

歯科医師は、患者の病態を正確に把握し、歯科衛生士に口腔ケアを含む指導管理の計画を立て、現状に則した指示をすることにより、より一層その効果を科学的根拠のある確実なものにできる。

特に歯科診療を行っていないがん診療病院において、がん患者の口腔管理等を行う。

又、事業評価のため、口腔ケアを実施したがん患者に、意識調査を実施する。

- ② 奈良県下の地域の実情に応じて口腔管理にかかわる人材の育成のための研修会や登録協力歯科医師に対する研修会を実施する。
- ③ がん患者の口腔ケアや歯科治療の重要性を啓発するため、病院関係者、介護支援専門員、歯科衛生士などを対象にした研修会を実施する。
- ④ がん患者の口腔ケアの重要性を啓発するため、広く県民を対象にしたリーフレットを作成・配布する。

3. 事業の効果と展望

- ① がん治療前後あるいは緩和ケア時の口腔機能管理（口腔ケア）の効果として、口腔粘膜炎や誤嚥性肺炎等の合併症を予防し、回復を促進することができ、如いては在院日数の短縮や経口栄養摂取が可能になるなど、がん患者の QOL の向上が大いに期待できる。
- ② 歯科ならびに歯科口腔外科を標榜するがん病院は限定されており、歯科衛生士を活用することにより、がん患者に対する口腔機能管理の啓発や地域の歯科診療所との病診連携の促進が期待できる。

4. 事業成果

- ① がん医科歯科連携講習会等受講証書発行数 [目標：400 人] ②85 人 ③122 人
- ② がん診療連携登録歯科医 [目標：会員数の 50%] ②83 人 (H28.8 末) [12%]
- ③ 歯科医・歯科衛生士派遣病院数 [目標：10 病院] ②3 病院 (14 回) ③4 病院 (27 回)
- ④ 病診連携数 [目標：10 病院]

◆平成 28 年度 事業進捗状況について（平成 29 年 2 月末現在）

《事業内容》

①がん診療病院へ対する歯科医師、歯科衛生士の派遣

《職員に対する口腔ケア実習》

・大和郡山病院

10/6	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 3 名	大和郡山病院スタッフ 25 名
11/10	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 4 名	大和郡山病院スタッフ 18 名
12/1	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 3 名	大和郡山病院スタッフ 17 名
2/2	： 歯科医師 2 名、 歯科衛生士 3 名	大和郡山病院スタッフ 14 名

《派遣事業の実績》

・大和郡山病院

1/19	： 歯科医師 5 名、 歯科衛生士 5 名、 患者 12 名
1/26	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 2 名、 患者 6 名
2/9	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 2 名、 患者 4 名
2/16	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 2 名、 患者 5 名
2/23	： 歯科医師 1 名、 歯科衛生士 2 名、 患者 5 名

・西和医療センター

6/17～2/17：11 日派遣 歯科医師 1 名、歯科衛生士 1 名、患者 14 名

- ・この他に、大和高田市立病院、土庫病院への歯科医師の派遣実績があり、現在集計中であります。
- ・意識調査については、実際に派遣を行って口腔ケアを実施した患者に対してアンケート調査を行っております。

②歯科医師対象の研修会の開催

- ・12 月 18 日に会員向け研修会（講師は奈良医大口腔外科医師団）を行い、38 名が受講しました。
- ・2 月 5 日に全国共通がん医科歯科連携 DVD 講習会を開催し、28 名が受講しました。

③病院関係者、介護支援専門員、歯科衛生士などを対象の研修会の開催

- ・9 月 11 日に奈良県歯科医師会館にて、病院関係者、介護支援専門員、歯科衛生士および会員歯科医師ならびにそのスタッフを対象とした研修会を開催しました。

講師：岸本裕充先生（兵庫医大歯科口腔外科学講座教授）

演題：がん治療をサポートするための医科歯科連携

出席者数：54 名（会員 28 名、医師 1 名、歯科衛生士 16 名、看護師 9 名、県保健予防課 1 名、病院地域連携室 1 名）

④ 広く県民を対象にしたリーフレットの作成、配布

- ・10,000 部が完成し、奈良県病院協会所属病院、各市町村、保健所、奈良県がん対策係、そして歯科医師会会員に配布を行いました。

②緩和ケア

<p>目指す姿</p>	<p>○全てのがん患者とその家族が、居住する地域にかかわらず。必要な時に質の担保された切れ目のない緩和ケアを受けることができる。 ○患者やその家族ががんと診断された時から緩和ケアを受けることのできる体制の整備が進んでいる。</p>
<p>平成28年度 取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3期計画策定に向けて検討 → 事務局で評価指標を整理、第2回部会で検討 2. 地域連携・緩和ケア普及推進事業 <ol style="list-style-type: none"> ①緩和ケア研修会の実施促進（P6） <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院の単位型緩和ケア研修会のとりまとめ ・拠点病院等のがんに関わる医師の受講機会拡大のため、奈良県がん診療連携支援病院（3病院）が研修会を実施（委託） ・緩和ケア研修の開催予定、研修会修了者名簿を「がんネットなら」で掲載 ②地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施（地域連携・再掲） 3. がん診療連携協議会での取組（緩和ケア分科会で取組実施） 拠点病院の緩和ケアにかかる取組の中で必須（原則必須も含む）要件となる取組の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①単位型緩和ケア研修会の実施 ②がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会（病診連携）の開催 ③2次医療圏内の在宅療養診療所等のリスト及び在宅緩和ケアマップの作成（地域の医療機能情報の調査・更新） ④緩和ケア普及啓発（県民公開講座等）の実施 ⑤拠点病院の緩和ケアチーム研修会の実施（医大）
<p>平成29年度 取組（案）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3期奈良県がん対策推進計画策定事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ならのがんに関する患者意識調査の実施。 2. 地域連携・緩和ケア普及推進事業 <ol style="list-style-type: none"> ①緩和ケア研修会の実施促進 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点病院の単位型緩和ケア研修会のとりまとめ ・緩和ケア研修会を奈良県がん診療連携支援病院(2病院)に委託し実施 ・緩和ケア研修の開催予定、研修会修了者名簿を「がんネットなら」で掲載 ②地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施（地域連携・再掲） 3. がん診療連携協議会での取組（緩和ケア分科会で取組実施） <ol style="list-style-type: none"> ①単位型緩和ケア研修会の実施 ②がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会（病診連携）の開催 ③緩和ケア普及啓発（県民公開講座等）の実施 ④拠点病院の緩和ケアチーム研修会の実施（医大）
<p>開催日</p>	<p>平成28年10月13日(木)、平成29年3月2日(木)</p>
<p>議論内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・痛みのスクリーニングの現状 ・緩和ケアの考え方の周知方法 ・医師の緩和ケア研修のあり方（フォローアップ等）

◆緩和ケア研修会の取組について

◀目標▶

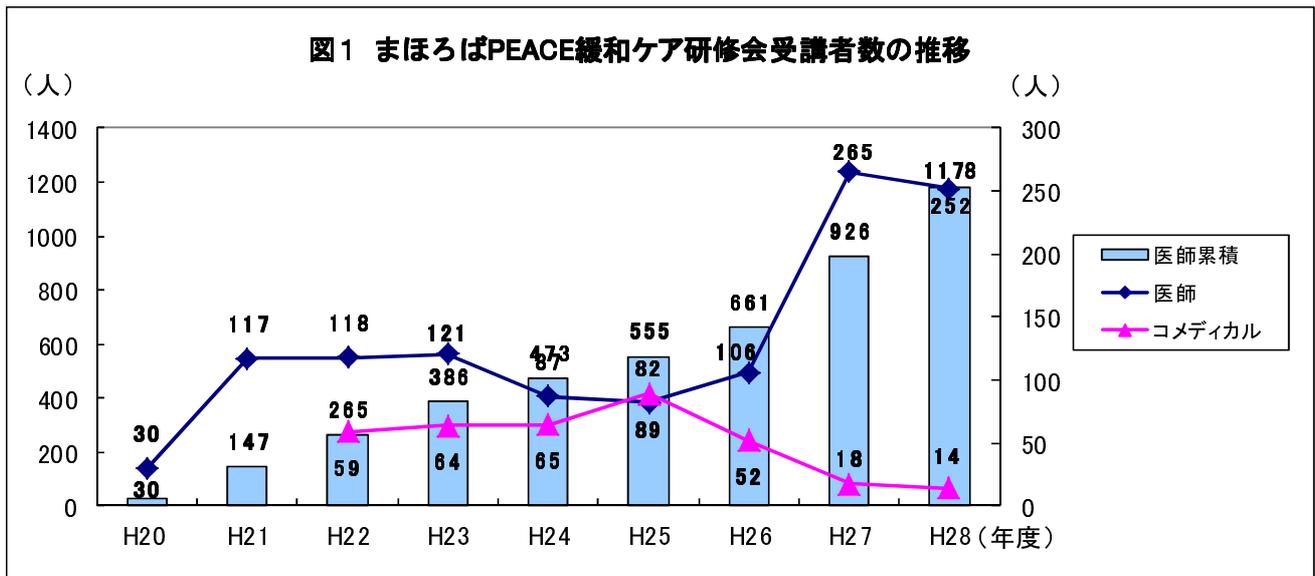
平成29年6月までに、がん診療連携拠点病院において、施設に所属する医師のうち、「がん診療において、がん患者の主治医や担当医となる者」（がん診療連携拠点病院の院長を含む）の9割以上の修了

平成28年度より、がん治療認定医の申請資格に加わる要件として、「緩和ケア研修会修了」が必須化。

1. 緩和ケア研修実施体制の見直し

- ①平成27年度より、奈良県がん診療連携支援病院（3病院）へ緩和ケア研修会を委託実施。
- ②平成28年度より、実施方法を一般型から単位型へ変更。

2. 緩和ケア研修受講状況



3. 緩和ケア研修修了状況（医師）

（表1）緩和ケア研修修了状況について（現況報告書より）

	奈良医大	奈総医セ	天理よろづ	近大奈良	市立奈良	合計
対象者(人)	236	71	105	61	69	542
修了者(人)	162	49	83	49	57	400
修了者割合(%)	68.6%	69.0%	79.0%	80.3%	82.6%	73.8%
90%を達成するための受講必要人数(人)	51	15	12	6	6	90

（H28.9.1現在）

- ・「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の受講率について」（厚生労働省健康局がん・疾病対策課 平成28年12月27日付事務連絡）により、平成28年9月時点で研修受講率が60%を下回る各拠点病院の長に対しては、厚生労働省より通知されている。
- ・当県では、上記により、すべての拠点病院で受講率60%以上となっているが、目標としている平成29年6月までに、受講率の向上に向けてより一層の取組をお願いしたところ。

③ 地域連携

<p>目指す姿</p>	<p>○がん患者とその家族が、地域での生活を維持しながら、診断、治療、さらに在宅、看取りまで切れ目のない地域連携による質の高いがん医療を受けることができる。</p> <p>○がん診療に関する地域連携体制の整備が進んでいる。</p>
<p>平成28年度 取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3期計画策定に向けての検討 → 事務局で評価指標を整理、第2回部会で検討 2. 地域連携・緩和ケア普及推進事業（P8） → 地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施 県医師会と連携して実施 3. がん診療連携協議会の取組 → 「パス分科会」を「地域連携分科会」に名称変更 取組実施 病診連携の検討、パス等の活用 4. 県の在宅医療、地域包括ケアの取組
<p>平成29年度 取組（案）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第3期奈良県がん対策推進計画策定事業 ・ならのがんに関する患者意識調査の実施。 2. 地域連携・緩和ケア普及推進事業 ・地域の診療所を対象としたがんの在宅緩和ケア研修会の実施 県医師会と連携して実施 3. がん診療連携協議会の取組 →がんパスの見直しや活用・地域連携分科会の開催 4. 県の在宅医療、包括ケアの取組
<p>開催日</p>	<p>平成28年10月13日(木)、平成29年3月2日(木)</p>
<p>議論内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携パスの認知度や運用について ・在宅医師の現状について ・がん患者の退院調整について

■がんの在宅緩和ケア研修会

●目的 在宅療養へのスムーズな移行のためには、地域の受け皿となる在宅医の増加が必須となり、患者の安心した療養のためには、更なる在宅緩和ケアの充実が求められている。

特に、がん患者の増加とともに、緩和ケアを含めたがん在宅療養へのニーズの増加が予想される。

在宅医療を実施していない地域の診療所等が、がんの在宅緩和ケアの実際と在宅指導のポイント等を学ぶ機会として研修会を開催する。

* 奈良県医師会「在宅医療の会」が実施する講演会の中ひとつのテーマとして共催実施。

●対象者 県内診療所医師、訪問看護師、奈良県がん対策推進協議会がん医療部会委員 等

●内容

日時・場所	内容・講師	参加者
平成29年1月28日(土) 14:30~16:30 奈良県医師会館3階大ホール 奈良市医師会館 (TV会議システムによる講演 中継)	講演Ⅰ (14:35~15:35) *講演Ⅰは医師会と共催 「住み慣れた家で死ぬということ ~外来の延長線上での在宅ケア~」 さくらいクリニック 院長 桜井 隆 先生 講演Ⅱ (15:35~16:15) 「死亡診断から考える地域包括ケア」 (医)泰山会福西クリニック 福西 克之 先生 質疑応答 (16:15~)	80名 (内訳) 医師:52名 訪問看護師: 28名

●概要

- ・今年度は医師会「在宅医療の会」との共催で実施し、多くの医師が参加された。
- ・桜井先生のご講演は、ユーモアも織り交ぜながら、在宅医療の必要なポイントを分かりやすくお話されていた。
- ・エンドオブライフを支えるのが町医者の仕事、まずは、普段診察をしている患者さんの在宅医療から始めてみませんかとのメッセージがあった。
- ・在宅医療開始4点セット：在宅医療を開始する際の患者との信頼関係の構築に有効。
 - ①退院前カンファレンス：どんなに忙しくても必ず参加すること！
 - ②携帯電話登録：本人、家族の番号をその場で登録。本人、家族の安心に繋がる！
 - ③退院当日の往診：医師の顔を見せるだけで良い！
 - ④退院翌朝のTEL
- ・医療条件の4分割（患者の立場、家族の立場、医療者の立場、社会の環境）を考慮しながら在宅医療を進めているとのこと。
- ・桜井先生のご講演で、「医師も人間だから、お風呂にもはいるし、酒も飲むが、患者・家族との信頼関係ができることで、その辺は理解していただいている。また、携帯番号をお互いに登録することで、患者・家族の安心感につながり、夜中に頻回に電話がかかることもない。」と話されていたのが印象的でした。
- ・参加者アンケートでは、今後の研修会への希望するテーマとして、「在宅医療の困難事例や、在宅看取りができた事例」「患者さん自身が望むサポートとは」「痛みのコントロール」など、具体的な事例提示を望む声が聞かれ、次年度の企画に活かしていきたい。

